

有害プランクトン情報

(令和3年度 - No. 2)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	5月 第1回	内湾 (8地点)	5/6	内房 (7地点)	5/6
		5月 第2回	内湾 (8地点)	5/20	内房 (2地点)	5/19
	貝類漁場内	千葉 北部	5/11, 5/20, 5/26	木更津北部	5/11, 5/17	
		木更津南部	5/10, 5/18, 5/24	富津	5/11, 5/18, 5/25	

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 % 以上) は確認されませんでした。
- 赤潮の基準には、達しませんでした。渦鞭毛藻類の大量発生が内湾全域で見られました。
 - ・ 5/20 最高密度は船橋沖の 131.1 細胞/m

※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 沖合漁場および貝類漁場内 (千葉北部, 木更津北部, 木更津南部) でディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
 - ・ 5/6 内湾全域 (沖合) 最高密度はアクアライン北部で 1.9 細胞/mL
 - ・ 5/20 富津沖、アクアライン南部、船橋沖～千葉沖 (沖合) : 最高密度は富津沖で 0.6 細胞/mL
 - ・ 5/10 木更津南部 (貝類漁場) 密度は 0.1 細胞/mL
 - ・ 5/11 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.8 細胞/mL
 - ・ 5/20 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.5 細胞/mL
 - ・ 5/26 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.6 細胞/mL
 - 沖合漁場および貝類漁場内 (千葉北部) でディノフィシス ロツンダータがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
 - ・ 5/6 富津沖、アクアライン北部～盤洲北部および羽田沖 (沖合) 最高密度はアクアライン北部で 0.9 細胞/mL
 - ・ 5/20 アクアライン南部、船橋沖、盤洲南部 (沖合) 最高密度はアクアライン南部で 0.4 細胞/mL
 - ・ 5/11 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.2 細胞/mL
 - ・ 5/20 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.15 細胞/mL

- 沖合漁場および貝類漁場でディノフィシス インファンディブラがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
 - ・5/6 富津沖、アクアライン北部～盤洲北部、羽田沖（沖合）：最高密度は羽田沖の0.2細胞/mL
 - ・5/10 木更津南部（貝類漁場） 密度は0.05細胞/mL
 - ・5/11 千葉北部（貝類漁場） 密度は0.1細胞/mL
 - ・5/24 木更津南部（貝類漁場） 密度は0.05細胞/mL

- 沖合漁場および貝類漁場でディノフィシス フォルティがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
 - ・5/6 富津沖、アクアライン北部～千葉沖、羽田沖（沖合） 最高密度は羽田沖の0.4細胞/mL
 - ・5/20 富津沖、船橋沖～千葉沖、羽田沖（沖合） 最高密度は富津沖、船橋沖、羽田沖の3地点でいずれも0.6細胞/mL
 - ・5/18 木更津南部（貝類漁場） 密度は0.05細胞/mL

- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。
 （貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

東京湾(内房)

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
 ※ 赤潮（透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上）は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

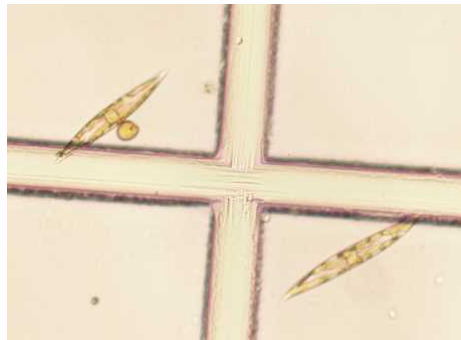
- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
 - ・5/6 2海保沖～大貫沖（沖合） 最高密度は大貫沖で0.1細胞/mL
 - 沖合漁場でディノフィシス インファンディブラがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
 - ・5/6 勝山沖（沖合） 最高密度は大貫沖で0.05細胞/mL
 - ・5/19 第2海保、浦賀沖、大貫沖（沖合） 最高密度は大貫沖で0.1細胞/mL
 - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。
 （貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

○ 各海域で見られたフランクtonの優占種

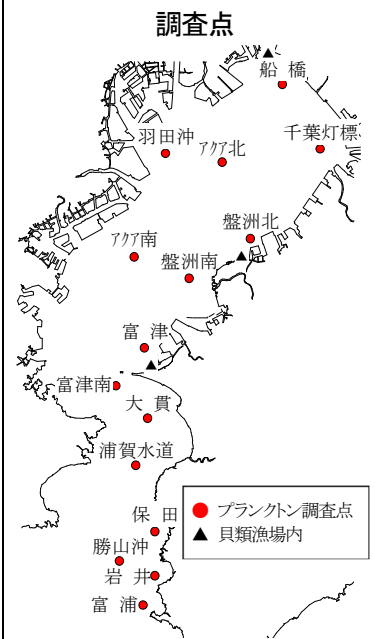
5/6	内湾・内房	渦鞭毛藻プロロセントラム属、アカシオ属など
5/19-20	内湾・内房	珪藻スケレトネマ属、ダクチリオソレン属、渦鞭毛藻プロロセントラム属、ヘテロシグマ属など



プロロセントラム属
(5/6 千葉沖)



プレウロシグマ属
(5/6 大貫沖)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp